

【久しぶり神田北口訪ねればどこへ行ったか金券ショップ】

ジョークサロン新年会当日、開始時刻前に神田駅北口に降りて駅前金券ショップ通りへ行く。あれっ、以前は軒を並べていたショップが消えているではないか。カンパで頂いた QUO カードやビール券を換金しようと思ったのに、困ったなぁと思いながら見ると小さな店があった。

ドアを開けるとすぐカウンターで女性が一人で対応している。聞けば大きめの店はコロナ禍の時に廃業したとのこと。「ウチは小さいから残って何とかしているの。社長ひとりで私はバイト」と元気な声が返ってきた。ともかくそれなりの換金が出来て、ほっとした。「実は切手を買うための換金なんだ」と話すと、「ウチに切手あるわよ。じゃ、切手に代えましょう」となって、話はスイスイ進みましたねえ。

電卓使った計算も早いし、処理もてきぱきしている。失礼とは思いつつ「おばさん、頭柔らかいねえ。いくつなの」と聞いたら、「昭和 27 年生まれ。まだ働くわよ」と。小生の一学年下でした。毎日電卓叩いて計算しているから元気だし、頭もスッカリ。脳トレしているようなものなのだ、と感心し敬服した次第。

話が弾んだので、次回もこちらに換金に行こうと固く決意したのだった。

一人きり孤軍奮闘すればこそ頭スッカリ仕事テキパキ

コロナ禍をしのいで残る店一軒神田北口孤軍奮闘

【フランシス、エド・マクベイン、ジョン・ル・カレ、クライトンまで半世紀読む】



神田駅北口から通りを一本隔てた神田多町の早川書房ビルを目指す。地下にあったレストラン「ラ・リヴィエール」でジョークサロン新年会を実施していた。残念ながらリヴィエールは廃業店じまいとなっていた。1階の喫茶「クリティー」を覗くと、早川浩（会長）さんと思しき人が打ち合わせしていた。店の方に確認するとドンピシャだったので挨拶をさせて頂いた。リヴィエールに足繫く通っていた頃には新刊本を頂いた事もあったのだ。昨年日経新聞に掲載された早川さんの「私の履歴書」は切り抜いて記念にしている。お元気で何よりだ。

小生が早川書房のミステリーにどっぷり浸かるようになったのは、社会人になりたての 1975 年に発刊された早川文庫でディック・フランシスの「重賞」を買って読み始めたのがきっかけだったと思う。そこから「興奮」「大穴」「本命」...を買い求め、最後は神保町の古本屋まで足を運んだ。ミステリツアーは続き、エド・マクベインの「87 分署シリーズ」、ジョン・ル・カレの「ティンカー・テイラー・ソルジャー・スパイ」のスマイリー 3 部作、最後はマイケル・クライトン「ジュラシック・パーク」へと繋がった。そして今も楽しんでいる。

楽しみは年末に出たミステリー正月休み読み耽るとき

「重賞」で嵌ってしまったフランシス古本探し全巻制覇

2026 年新年特別付録 想い出す作家たち

早川書房から刊行されたミステリーで出逢った作家と作品 *代表作或いは小生のお気に入りです

楽しいひとときを過ごしたことは間違いありません

アイラ・レヴィン
 ジョセフィン・ティ
 アガサ・クリスティ
 ウィリアム・アイリッシュ
 G・K・チェストン
 レイモンド・チャンドラー
 エラリー・クイーン
 F・W・クロフツ
 アーサー・コナン・ドイル
 ギャビン・ライアル
 ハリイ・ケメルマン
 コリン・デクスター
 トマス・チャステイン
 ポーラ・ゴズリング
 スティーヴン・グリーンリーフ
 マイクル・Z・リュウイン
 ローレンス・ブロック
 ロアルド・ダール
 ケン・フォレット
 ジャック・ヒギンズ
 マーティン・クルーズ・スミス
 イアン・フレミング
 ジェフリー・ディーヴァー
 デニス・ルヘイン
 ピエール・ルメートル

死の接吻
 時の娘
 オリент急行の殺人
 幻の女
 ブラウン神父の知恵
 長いお別れ
 Xの悲劇
 樽(たる)
 シャーロック・ホームズの復活、バスカヴィル家の犬
 深夜プラス1
 土曜日ラビは空腹だった
 ウッドストック行最終バス
 ダイアル911
 逃げるアヒル
 致命傷
 夜勤刑事
 八百万の死にざま
 キス・キス、あなたに似た人
 針の眼
 驚は舞い降りた
 ゴーリキーパーク
 ゴールドフィンガー
 ジョン・パラムシリーズ 「ヘルズ・キッチン」
 運命の日
 天国でまた会おう



最後に小生同様ディック・フランシスに嵌った人のコメントと「馬」が答の漢字クイズがおまけです。

2024. 10. 20

記者が初めて競馬に興味を抱いたのは中学生の頃だ。未成年が公営ギャンブルに興じていたのではない。英国の障害競走の名騎手から作家に転じたデイク・フランシスの「興奮」という競馬ミステリーに接し、魅了されたのだ。NHKがラジオドラマ化して放送した。英国の障害レースで大穴が続出する。八百長なのか。出走した馬に興奮剤が投与された疑惑が浮上する。が、検査しても証拠は見つからない。調査を依頼された男が厩務員として現場に潜入。黒い霧の解明に乗り出した。本作に出合ってから、作家の競馬小説シリーズの沼にはまった。プロゆえの洞察と細部の描写が光る。

▼日本中央競馬会(JRA)の女性騎手の星、藤田菜七子さんが先日突如、引退した。不正防止のため通信を禁じた競馬場の施設にスマホを持ち込み外部と連絡していた、と週刊誌が報じた。「通信の履歴を入手したが、内容はごく普通の日常会話だった」と伝える。内部情報の漏洩はなかったようだ、が、明白な規則違反だ。

▼きょうは菊花賞だ。でも、心は晴れずレースを楽しむ気になれない。今年、伴侶を得た藤田さんには志があった。男社会の中で、母になっても勝利を重ねたニュージランドの女性騎手リサ・オールブレスさんの背中を追うことだ。夢は散ってしまった。そういえば、前出の作家に「再起」という作品がある。人生は続く。

春秋

は中学生の頃だ。未成年が公営ギャンブルに興じていたのではない。英国の障害競走の名騎手から作家に転じたデイク・フランシスの「興奮」という競馬ミステリーに接し、魅了されたのだ。NHKがラジオドラマ化して放送した。英国の障害レースで大穴が続出する。八百長なのか。出走した馬に興奮剤が投与された疑惑が浮上する。が、検査しても証拠は見つからない。調査を依頼された男が厩務員として現場に潜入。黒い霧の解明に乗り出した。本作に出合ってから、作家の競馬小説シリーズの沼にはまった。プロゆえの洞察と細部の描写が光る。

六方漢字クイズ
 真ん中口に入る
 のは・・・馬
 (2026/1/24
 日経プラス1)

